



□前號にも一寸御披露致置候沼田氏寄贈の金は、本誌の擴張に使用致候へば、毎月寫眞版一枚を増すのみにても一ヶ年にて盡くべく、若し石版を増せば二三ヶ月より繼續出來不申候、夫故、本誌の講話及挿繪の材料となるべき美術書及畫帖の類を購入致すに決定致候。

□讀者諸君のうちには本誌の發展を望まるるあまり、紙數や挿繪の増加を急激に希望せらるゝ方々も有之候へ共、前々より申上候通り時間も經濟も共に餘裕乏しく、自然進歩の遅々たるは吾ながら残念に存居候。

□諸君の御催促なくとも、本誌は出來る丈け理想に近きよき者に致度希望に候まゝ、些少なりとも餘裕の出來次第挿繪の増加を勉め居候、其發達の程度は本誌第一と、近刊の諸號と御比較相成候はゞ思半に過る事と存候。

□本誌の如きは幸に他の美術雜誌よりは發行部數多く候へ共、夫とても多寡の知れたものにて、寄稿家への報酬は元より編者の車代すら餘すの餘地は無之候。又之を得んとする心も無之候。

とする心も無之候。

「併し挿繪の多き雜誌は、刷高が増せば増す程廉價に出來上るものにて、假に現在の發行數に對し五割を増すとす時は、慥に猶石版畫一枚を加え得べく、若し十割を増せば三枚を多く附加し得べく候。

□故に若し諸君にして、此上本誌の進歩を望まるゝに候はゞ、讀者一人につき別に一人宛の購讀者を勧誘せられ度、さすれば前記の通り紙數も挿繪も増加し得べく、編輯事務の人をも雇ひ得べく候。

□本誌編者は爾後益々本誌の發達を圖るべく候に付、讀者諸君も共に盡力あらんことを希望致候。

□本誌の口繪は、特にロンドンに照會して持主の許容を得しものに付、無斷複製は御斷り申候。

評

◎實用寫眞數學 久野 轍輔著

日本橋本町 小西本店發行

四六判二百四十頁クローズ綴正價

五十錢

此書は寫眞術に必要な數理并ひに其計算法を示し多くの例題を擧げ極めて平易に説明したるものにして苟も寫眞機を弄ぶものには一日も缺くべからざる好參考書なるべし、猶附録には各種の乾板及白金タイプ臭素紙等の現像法を初め鍍金液の製法等洩さず記されたれば、初學者にとりても有益のものなるべし

◎寫眞例題集 第十九卷第二十卷

大坂 桑田商會發行

疊紙入十枚一組各金參拾錢

何れも美しき出來榮なるが第十九卷の猫は名畫を見るが如く春雨、寒き朝、鐘樓の曉等は位置に於て優れるが如し第二十卷は何れも船の圖にて位置として吾等の目に快きは雨中の網、河畔の曉雲、春の水面等なり

■『みづゑ』の代金を郵便切手で送らるゝ方は裏の糊の粘かぬやうに必ず間に紙を挿んで下さい(發送係)